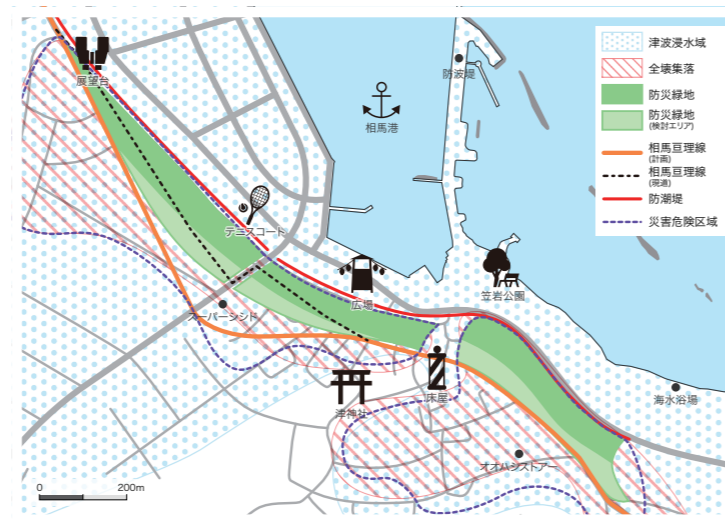


原釜尾浜防災緑地 を考える 住民会議



事業の概要

この会議は、原釜尾浜の沿岸部に津波や海の災害から住民を守る防災緑地をつくるために開かれます。防災緑地とは波からまちを守る防潮堤や防潮林そして道路を含め幾重にも渡って「多重防御」することを軸に「地域再生の支援」していく場所です。そのためには、平常時から地域住民などの多様な主体が緑地を利用し、持続的に維持管理をしていく連携体制を構築していくことが必要です。この会議では、今後緑地をどう活用するかを検討し、住民と一緒に緑地をつくっていくことを目的にしています。



防災緑地のできる場所

今日のプログラム

- 18:30 ごあいさつ
 - 18:40 この事業について
 - 18:45 防災緑地について
 - 19:00 防災緑地の事例紹介
 - 19:20 意見交換会
- 開催日時：2013年9月26日(木) 18:30～21:00
 場所：相馬市東部公民館
 参加者：29名



真剣に防災緑地の説明に聞き入るみなさん

アドバイザーのコメント



宮城大学
食産業学部教授
森山 雅幸さん

この場にはすでに楽しいコミュニティがある。このコミュニティが活かされると良い。子供たちのための場、防災に対する教育をして命を守るようにしたい。会議では「またここに帰ってきたい、そういう緑地にしたい」というみなさんの思いが印象に残った。



樹木医
鈴木 俊行さん

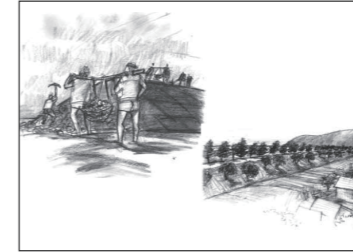
緑地は、緑を育てることが大前提の場所である。計画する際はいつの時点の緑、10年後、100年後、1000年後の緑を創造するのか頭に描いてもらうと良いと思う。

事例紹介 会議では、住民がつくる防災・災害の施設について事例を紹介しました。古くは江戸時代に遡るものまであり、維持・管理のことも参考になるヒントがありました。

稲むらの火 和歌山県有田郡



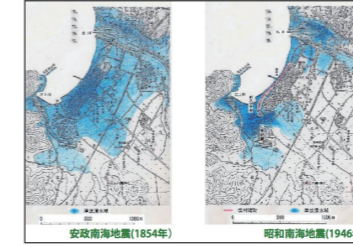
津波が来たときの様子



住民が堤防をつくる事業を興した



昭和の頃と現在の様子



昭和に再度津波が来たときは堤防が波をせきとめた

- ・私財をなげうってまで住民の命を守った
- ・自分たちの手で、身を守るための堤防をつくった
- ・後世にまで続く堤防となった

稲むらの火は和歌山県有田郡広川町であった実話です。安政の時代、1854年に起きた安政東海地震の津波のときに、これまでの地震とは比べ物にならない大きさの大津波が来る事を知った「濱口梧陵（はまぐちごりょう）が、稲が実った自分の田んぼに火を放ち村人を高台へと避難させました。おかげで、村の9割の人の命が救われました。

梧陵は、被害の規模に嘆く村人が村を出て行く姿を憂い、自分の私財をなげうって堤防をつくる事業を興しました。村人は堤防づくりで働き、4年間で高さ5mの広村堤防をつくりました。



濱口梧陵
(はまぐちごりょう)
紀伊国出身の実業家

安政の地震から92年後の1946年、昭和21年に再び地震が起きたとき堤防があるところは、被災を免れました。現在も堤防はそのまま残っています。

その他の事例

その他にも、暮らしを守るために住民が自ら協力して施設をつくっている事例を紹介しました。自分たちで苗を育てて植樹したり、プロのレクチャーのもと緑の維持・管理をしたりと、暮らしに結びついた管理をしています。



公園の様子



海辺の様子



植樹の様子

植樹の様子



市民参加の苗づくり



語り場の場



レクチャーを受ける



活動の様子



ドッグラン



水軒の浜

神戸震災復興公園(兵庫県)

湘南海岸砂防林プロジェクト(神奈川県)

水軒堤防(和歌山県)

参加者の感想

- ・みんなで集まって話し合っていることが「新しい港町」をつくるみんなの思いなんだと思った。
- ・集まった人の気持ちは同じ「ふるさとが大事」ということですね。
- ・地域の人材、資源、環境を活用していけますように。住民でつくる意識が好きです。

次回のお知らせ

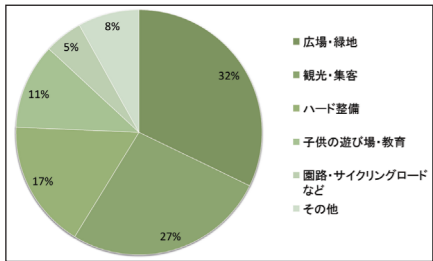
第2回住民会議は
11月5日(火) 18:30～
相馬市東部公民館
テーマ「防災緑地でやってみたいことを整理する」

<お問い合わせ先>福島県相双建設事務所
担当：道路・橋梁課 佐藤・中村 電話 0244-26-1218

相馬の人の声・困っている・やってみたいこと

住民会議を実施する前に相馬の住民のみなさんに防災緑地について望むことを聞きました。そして住民会議では、相馬に住んでいて困っていることと、防災緑地でやってみたいことを話し合いました。暮らしていく上での悩みが多く出る中、防災緑地でやってみたいことの中には暮らしの悩みを解決できそうなアイデアがありました。オレンジ色の線で困っていることと、アイデアの関係を結びました。

防災緑地に望むこと



どんなことを望むか

広場や緑地、集客に関する声

- 楽しい場所かつ安心・安全な場
- ビオトープをつくりたい
- 子供にとって身近な遊び場
- 観光・集客など人が集まる場
- お祭りができる場
- お金がかからず誰でも使える

ハード整備・遊び場に関する声

- 避難経路の案内
- トイレ
- 埋め込み式照明
- 海を通じた自然・災害教育の場
- 津波の記憶を残す
- 子供達が残りたと思う場



ビオトープ

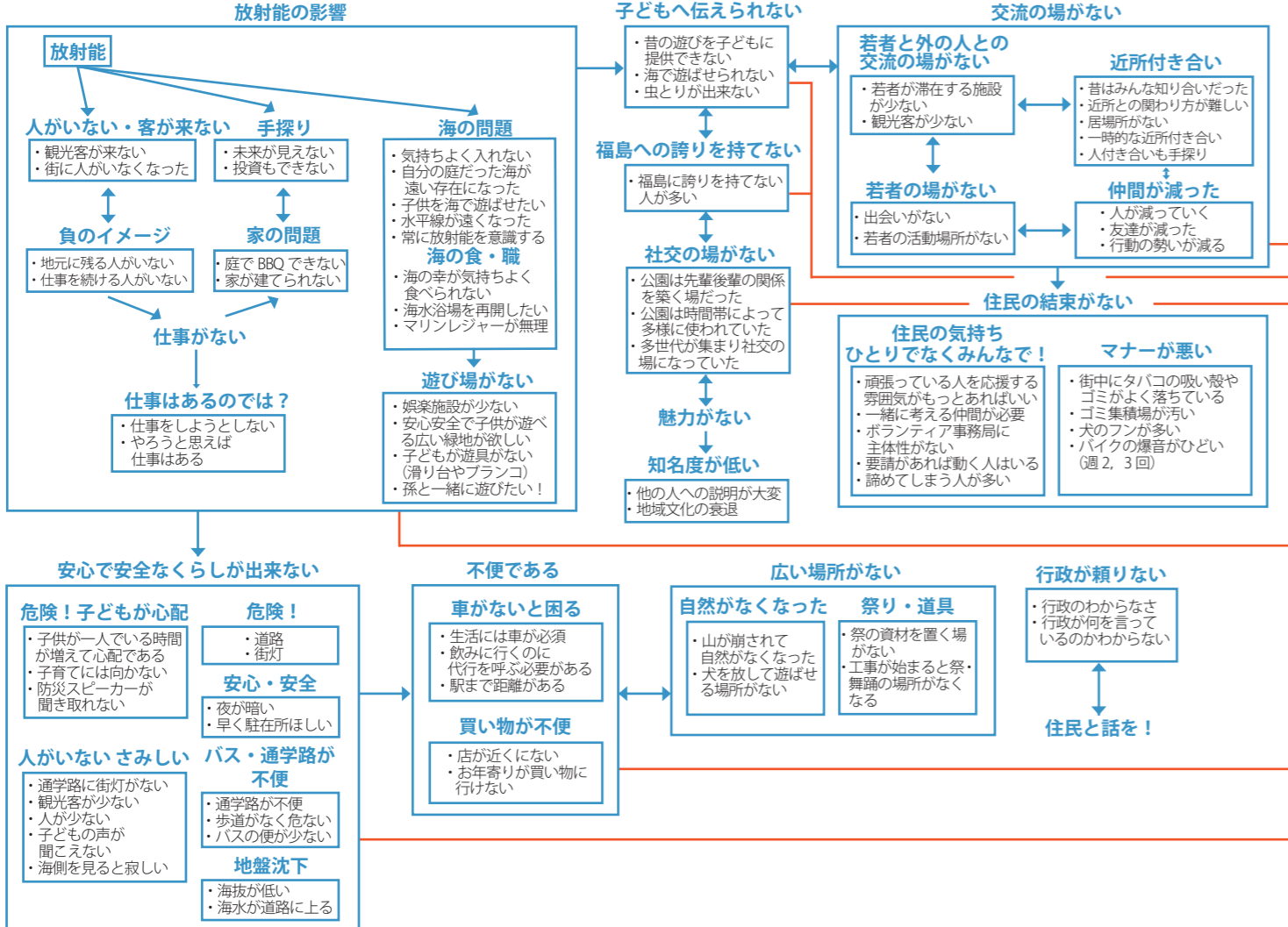


楽しみながら災害教育

人や景観のことを考えた声も

- 被災者のメンタルケア
- コミュニティがいきるまちづくり
- 景観を意識した防災緑地

暮らしていく上で困っていること



防災緑地でやってみたいこと

